京城日報
夕刊
一月二十二日(日)
治吉島見 入行京城郵便
印刷人 之助三川
日ノ一通ヤ京城
電報日城京 電話番号
所行發
三共清涼飲
京城三四四番

皇后、皇太后兩陛下 恩賜の眞綿傳達式

今朝本府で擧行さる

[illegible]

傳達者

昭和八年一月十二日
朝鮮總督 宇垣一成

御下賜品に關する件

今般國境警備の任に當る警察官吏に對し、防寒用として眞綿を皇后、皇太后兩陛下より御下賜相成候樣、宮內省申上ぐ

御答禮電報

皇后宮大夫殿 朝鮮總督

皇后陛下に謹かせられては、畏くも朝鮮國境警備警察官吏の苦勞を思召され、特別の御配慮を以て御下賜品拜受の恩榮に浴し、感激の至に堪へず、夫々命旨を體達するに當り、一同國境警備警察官吏を代表し、謹而御禮申上げ、謹而奉答申上ぐ

皇太后宮大夫殿 朝鮮總督

皇太后陛下に謹かせられては、畏くも朝鮮國境警備警察官吏の苦勞を思召され、特別の御配慮を以て御下賜品拜受の恩榮に浴し、感激の至に堪へず、夫々命旨を體達するに當り、一同國境警備警察官吏を代表し、謹而御禮申上げ、謹而奉答申上ぐ

感謝電報

拓務大臣殿 朝鮮總督

天皇、皇后、皇太后、皇太子殿下より朝鮮國境警備警察官吏に賜はる眞綿下賜品拜受の恩榮に浴し、感激の至に堪へず、御厚恩の段、何卒御傳達方御願ひ上ぐ

寫眞說明一 (上)川岸侍從武官今朝京城驛發國境へ(下)四賜の眞綿傳達式(今朝本府警務局長室で行はる)

重ねぐの光榮に感激

鴻恩の萬分の一に報ひ奉らん

池田警務局長謹話

一昨日は畏き邊りより御差遣の侍從武官川岸陽下より御親閱下に對し、國境警備警察官吏の苦勞に關し極めて優渥なる聖旨に有難き命旨の御傳達を賜はり、併せて御下賜品拜受の恩典に浴しまして私共一同誠恩の餘光感激に堪へなる感激に堪へざるものがあつたのであります。

畏くも皇后、皇太后兩陛下より國境警備警察官吏に對し御下賜の御沙汰を拜しまして御眞綿を、珍貴至極なる勞賞として賜はり、併せて御下賜品拜受の恩典に浴しまして私共一同誠恩の餘光感激に堪へざるものがあつたのであります。

が、本日又優渥なる聖旨を賜はり、且つ御下賜の御沙汰を拜しまして御眞綿を、珍貴至極なる勞賞として賜はり、併せて御下賜品拜受の恩典に浴しまして私共一同誠恩の餘光感激に堪へざるものがあつたのであります。

畏くも皇后、皇太后兩陛下より國境警備警察官吏に對し

刑務所志願の辻強盜本町に現る

逐電事件二つ發生 トリック殺人

【昭和六年の巻】

昭和六年下半期に於ける犯罪界は殺人、強盜、放火、詐欺、横領、贈賄、偽造、文書偽造、賭博、風紀、公務執行妨害、傷害、過失致死、過失傷害、過失致死傷、過失傷害、過失致死傷、過失傷害、過失致死傷

地方版

お名殘のお土産案建議
最後の幕まで賑ふ
忠北道會＝最終日

【新京】[illegible]

火葬場爭ひ幕を閉づ
邑會を公開し邑長が懇篤な釋明
羅南邑議もその非を悟り
完全に和解成立す

【羅南】[illegible]

遊廓で服毒
妓生も後を追ふ
城津の富豪の息子
二人共命を取止む

【城津】[illegible]

雄基の學議決定
二十日開祭

【雄基】[illegible]

舊歲末で賑ふ開城

物騒極る舊年末
白晝空地で通行人を脅迫
たつた十五錢强奪
＝大邱のギャング＝

【釜山】[illegible]

平元線の促進
元山側でも猛運動
滿浦鎭線豫算計上に刺戟され
廿四日公職者大會

【元山】[illegible]

五人組窃盜團
府内を荒し廻る
釜山署殘らず逮捕
被害二千圓に達す

【大邱】[illegible]

元山病院の道移管愈よ決定
七月一日から實現
漸く府で厄介拂ひ

【元山】[illegible]

和順の二人泥
夜警が逮捕

【光州】[illegible]

二人組の覆面强盜
食刀で脅迫
金品を强奪

【海州】[illegible]

鐵原の救世病院全燒

【鐵原】[illegible]

毛筆で書いた贈札

【平壤】[illegible]

貧民にお米を惠む

【釜山】[illegible]

陸海軍大飛行場
元山府民の待望實現か
附近某地廿餘町歩に亘り
―設置の計畫進捗

【元山】[illegible]

南原の納稅組合

【全州】[illegible]

太刀洗機も
耐寒飛行を決行
三十日偵察機六機
一氣に平壤へ飛來

【大邱】[illegible]

無茶な工夫
一名重傷を負ふ
道路工事中火藥を
玄能で强打し爆發

【平壤】[illegible]

平南の校長會議

【平壤】[illegible]

所澤機
平壤歸着
廿三日歸還

【平壤】[illegible]

大同の官父殺し
二十日送局

【平壤】[illegible]

紅蓼を密賣
仁川驛で檢擧

【仁川】[illegible]

列車に投石

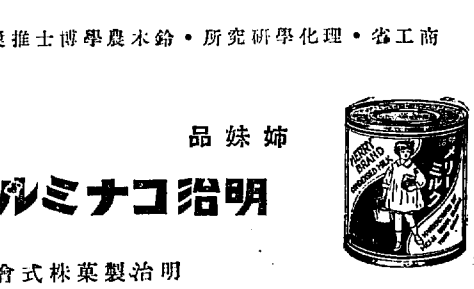
【平壤】[illegible]

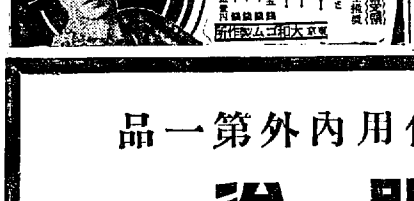
忠南異動
廿日付發令

【大田】[illegible]

二謎
札圓十の
◇すま惱を署邸大◇
件事いしら珍

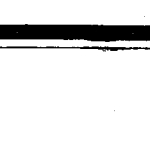
【大邱】[illegible]


貧民にお米を惠む
三氏より貧民救濟金として仁川郡に寄附された現金五百圓を昨日代へて二十一日開催一回の施米を受けてゐる貧民後姿の貧民達



滋養卵油鰻油
井上又七

虛弱に滋養と强壯
無臭ニンニクエキス
代金

品一第外内用代乳母
治明
クルミーリメ
商工省・理化學研究所・鈴木農學博士推奬

姉妹品
明治コナミルク
明治製菓株式會社

ノーシンありて日日是好日

宇垣朝鮮總督閣下筆
『自力更生』額面實費奉仕
（京城日報新年號附錄）
▼甲製一圓八十錢（紙張製非人組）
▼乙製一圓五十錢（上質紙張製）
表具師　若山新助
大田本町二丁目　松華堂

絕對カブレなし
白髮染
キング製藥

式正
國旗
大久保眞織國旗部
京城黃金町一丁目三番地

瀨戸皮膚科醫院
瀨戸潔
京城府旭町二丁目八番地
電話本局二四九八番

新築開業
滿洲旅館
安東縣五番通五丁目
電話　四一〇〇九番
△位置は驛より約五十間の中心にして御用務に甚便
△國境の地に相應せる建築と完備せる設備（スチーム）
△各室明るく感じよく親切なお人柔仕方朝鮮より
△サービスは家族的
各室草上電話有之
館員一同親切叮寧をモットーに皆樣のお出でをお待ちして居ります

的田雙六 [54]

長谷川伸 (画) 藤井清

大波小波 (四)

二郎次のうしろ姿を、珠の眼は惜りて見送つた。

世才に長じてゐるやうな小賢でゐるらしい二郎次や、押し寄つてきさうに思つてゐた二郎次も、ともに不信共な思ひ出を殘してゐるが、年少者のスケ〳〵といひ放つた、ひたむきなのが明らかに分かつてきた。

江戸風俗に父の太刀馬が、馬小屋に居いてからも、珠はまだ二郎次の清潔や、剛い眼を思ひ出して恍惚してゐた。

太刀馬の居間に珠のゐる間は、坂部兵衛、何もはなかつたが、珠が立つて行くと直ぐ、低聲になつていつた。

『酒名田の宗助が、出奔したさうにござる』

太刀馬は少し驚いた。

『ふム。さうか。曲者に逃つて飛び出しをつたな。探させて引戻せ。あの小僧で何が出來るものか』

『はッ既に、郎人が出てゐるさうでござる』

二郎次は、酒名田の事は、やがて珠の耳にもはいつた。

『父上様、二郎次が出奔の曲者にござる』

『酒名田の宗助が、出奔したさうにござる』

『酒名田の宗助が、白昼夢でもみたのか』

『二郎も、二郎も、思ひあがりが強うござりました。ホ、ホホ』

太刀馬は默つて考へ込んでしまつた。

坂部兵衛は、それまで默つてゐたが、聞き込んだことがあると見た、苦々しげに吾打もし。

『酒名田兄弟は元來が無鼎もの、今度の馬鹿ではないのでござる。逐電は美しいに相違ないが、いかに美しいからとて、その爲のみに一命を擲げるとは、武士の本義に外れた奴根でござる。そんな者はいくら死んでも惜むに及ばぬ、二郎次の貴二郎めが、父、馬鹿を見にもつたけあつて目垂少しばかりまばもけた奴に見えてゐたが、土壁からの馬鹿は綺ひが利かぬから、是非がござらぬ。太刀馬様、馬鹿は馬鹿放題にして置くがよろしうござる』

坂兵衛の言葉のうちに、美鼎を極度したやうに取れるところがあるので、珠は、キラリと男が感つた時のやうな眼を坂兵衛にくれた。

太刀馬は、夢からさめたやうに他の事をいひ出した。

『珠、わしは、愛六を討取らうと思ふてゐる』

『え！』

『ハハハ。父の決心が思ひがけぬとでもいふのか、お前は、矢口の渡鼎で、何度となく父に愛六と決戦しろと勧めたが、その時のわしは百を縦にふらなかつた』

『父上様には、何として急に、ご決心がお聴りになつたのでござりまするか』

『則に、急に聴りとわしは思つてをらぬ。今までとても愛六を備れてゐたのではない』

『それはよく存じてをりまする』

『わしは愛六の考へを、何とかして聴へさせてやりたいと思つただけだ』

『そのお考へが、急に、何として聴りなされたのでござりまするか』

『則に、急に聴りとわしは思つてをらぬ。今までとても愛六を備れてゐたのではない』

『それはよく存じてをりまする』

『わしは愛六の考へを、何とかして聴へさせてやりたいと思つただけだ』

『そのお考へが、急に、何として急に、ご決心がお聴りになつたのでござりまするか』

『父上様には、何として急に、ご決心がお聴りなされたのでござりまするか？』

『則に、急に聴りとわしは思つてをらぬ。今までとても愛六を備れてゐたのではない』

『それはよく存じてをりまする』

『わしは愛六の考へを、何とかして聴へさせてやりたいと思つただけだ』

『そのお考へが、急に、何として急に、ご決心がお聴りなされたのでござりまするか